

## [1] アクティブラーニング

- アクティブラーニングとは「主体的、能動的な学び」という意味
- 近年では、ICT教育が重要なポイントである
- アクティブラーニングでは、板書などをする~~ことがない~~ 実習・演習形式が多い
- 教科情報では、実習・演習も交える必要性

## [2] BOYD (Bring Your Own Device)

- 生徒が個人の端末を学校に持ち込み、学習に活用するのが BYOD(Bring Your Own Device)
  - メリットやデメリットが存在する

## [3] ティーム・ティーチング (TT)

- 特別支援学校では、ほとんどの授業がTTで行われており、欠かすことのできない
- TTは、1950年代にアメリカで始まった教育形態で、1960年代に日本に紹介され。日本の障害児教育では、養護学校教育義務制に向けた複数担任制と、その後の教員定数の改善の流れの中で、障害の重度化・多様化に対応する方策として全面的に取り入れられ、一般的な教育形態として定着
- TTの定義は、「2人以上の教員がチームを組み、児童生徒の教育に責任を持って当たる協力型の授業組織である (Shaplin,1964)」が一般的です。「協力教授」「協力教授組織」などと訳されている
- TTは、「複数の教師がチームとなり、各教師の特性を生かしながら、一つの子ども集団を対象に、指導の全部または一部について共同で責任を負い、協力して指導に当たること」

1. 単集団 (全体支援) 型
2. 単集団 (個別支援) 型
3. 単集団 (小グループ支援) 型
4. 複数集団 (グループ巡回支援) 型
5. 複数集団 (グループ分担支援) 型
6. 複数集団 (合同学習支援) 型

- TTを機能させるためには、授業づくりの各段階 (1. 指導計画の立案、2. 必要な教材・教具の準備、3. 指導の実施、4. 評価と反省) において、教師が協同で進めることが大切
- 各段階で、教師同士が授業に対する十分な共通理解を図ることが必要
- 【TTで共通理解する内容】
  - ① 子どもの個別目標
  - ② 授業展開
  - ③ 役割分担
  - ④ 展開や活動内容、個別目標を考えたTTの指導・支援内容の確認
  - ⑤ 評価 (児童生徒の姿、教師の手立て) 効果的な指導にするには、

[4] 演習

- 2名以上3名以下で教科情報におけるTTの模擬授業を行ってみる
- 単元はどこでもよいが、指導案をきちんと作成すること

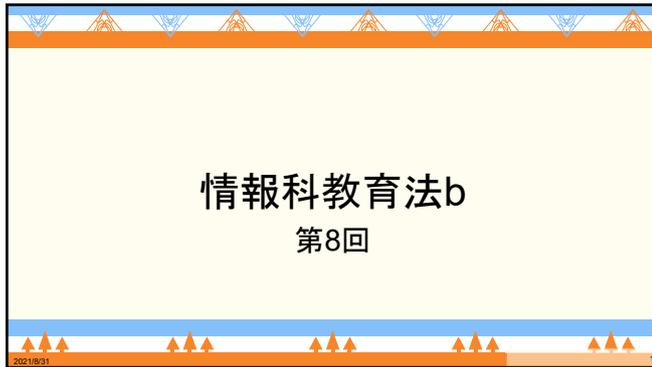
[5] 課題

1. 教員1人におけるアクティブラーニングのメリット/デメリットを考えよ
2. TTにおけるアクティブラーニングのメリット/デメリットを考えよ
3. 教員の立場からしてBOYDについてメリット/デメリット
4. TTについての必要性と現状

- 前回2回分の課題を評価せよ

提出：Google Form

締め切り：授業の前日21時まで



1

---

---

---

---

---

---

---

---

スケジュール with コロナ			
授業回数	Date		内 容
1	8/23	Web	ガイダンス、様々な模擬授業を見る
2	8/23	Web	情報I～情報社会と問題解決
3	8/24	Web	情報I～コミュニケーションと情報デザイン
4	8/24	Web	情報I～コンピュータとプログラミング
5	8/26	Web	情報I～情報通信ネットワークの活用
6	8/26	Web	情報IIについて
7	8/31	Web	情報IIについて+指導案
8	8/31	Web	アクティブラーニングとチーム・ティーチングについて
9	9/2	対面	チーム・ティーチングの模擬授業
10	9/2	対面	模擬授業（☆）
11	9/2	対面	模擬授業+指導案作成
12	9/6	対面	模擬授業
13	9/6	対面	模擬授業
14	9/6	対面	模擬授業&総括

2

---

---

---

---

---

---

---

---

本日の内容	
•	前回の演習の情報Ⅱ「5.情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求」におけるテーマ
•	チーム・ティーチングについて

3

---

---

---

---

---

---

---

---

### アクティブラーニング

教員による一方的な講義形式の教育とは異なり、学修者の**能動的な学修**への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が**能動的に学修**することによって、**認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成**を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習などが含まれるが、教室内での**グループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク**等によっても取り入れられる。

、ICTの有効利用

中教審答申(大学教育質的転換答申) 2012.8.24

一方的な知識伝達型講義を聴くという(受動的)学習を乗り越える意味での、あらゆる**能動的な学習**のこと。能動的な学習には、書く・話す・発表するなどの活動への関与と、そこで生じる**認知プロセスの外化をとまなう**。

溝上 慎一(2014)『アクティブ・ラーニングと教授学習パラダイムの転換』東信堂。

4

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

### アクティブラーニングの例

**ALの例①『学ひ合い』**

子ども同士で教え合い、学び合い、自発的に学習していく授業

「1人も見送らない」で「全員が課題を達成する」  
 ① 教師が課題を与える (5分)  
 ② 「はあ、どうぞ」と戻し、子どもが動く  
 立ち歩き、話し合いOK (40分)  
 ③ 成果を振り返る (5分以内)

【効果】  
 成績向上、人間関係の改善、教師がゆとりを持って、すぐに効果が出る  
 人と張り合える人間に育つ(倫理観の向上)  
 部活動等と同じ

西川 真 (2015) 『すぐわかる!できる!アクティブ・ラーニング』学研書房

【実践例】  
 立命館宇治高等学校「物理」「国語」で「サイボウズLive」を使ったディスカッション  
 近畿大学付属高等学校「数学」の「反転授業×共同学習」  
 都立尚志高等学校「英語」のディスカッション、ディベート、「4コーナース」

5

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

### アクティブラーニングの例

- アクティブラーニングでは、板書などをすることがない **実習・演習** 形式が多い
- 教科情報では、**実習・演習**も交える必要性

↓

- そのためには。。。コンピュータが必要?

6

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---



### TTの学習形態

1. 単集団(全体支援)型
2. 単集団(個別支援)型
3. 単集団(小グループ支援)型
4. 複数集団(グループ巡回支援)型
5. 複数集団(グループ分担支援)型
6. 複数集団(合同学習支援)型

2021/8/31 10

10

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

### TTの学習形態

**I 単集団(全体支援)型**

- ・T1が全体を進める。T2は、集団全体を見ながら、支援が必要な子どもを支援する。T2は学習課題の理解を助ける、活動を補助するなど、課題や場面に応じた支援を行う。

**II 単集団(個別支援)型**

- ・T1が全体を進める。T2は、特定の子どもの支援を担当する。
- ・全体の授業のねらいに沿って、担当の子どもが同じ学習活動を行えるよう支援する。
- ・学習集団が比較的等質で、特定の子どもの支援が必要な場合に用いられる。

**III 単集団(小グループ支援)型**

- ・T1が授業を進め、T2は、支援が必要な複数の子どもの支援を担当する。
- ・全体の授業のねらいに沿って、同じ学習課題でなく、特別な課題や実態に応じた課題を設けて学習する。

2021/8/31 11

11

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

### TTの

**IV 複数集団(グループ巡回支援)型**

- ・小集団で学習を進め、教師はグループ間を巡回して指導する。
- ・同じ課題や異なる課題、等質、異質集団など、活動内容や集団構成に多様な幅がある。

**V 複数集団(グループ分担支援)型**

- ・小集団で学習を進め、教師は担当するグループで指導する。
- ・同じ課題を少人数で、細やかな配慮で学習したり、子どもの様子に応じて設定された異なる活動をしたりする。
- ・同じ教室内など、共通の場で行うと、教師間で学習進度を調整し合いながら進めることができる。
- ・別教室など、離れた場所で行うと、学習や活動内容に幅を持たせることができる。

**VI 集団連結(合同学習支援)型**

- ・ダイナミックな活動をねらい、大きな集団で学習する。T1が全体を進め、T2などが支援する。(I型と同じ)
- ・複数学年、学部全体といった集団で行うことで、活気あるダイナミックな活動が期待できる。
- ・集団が大きいため、有効に機能するためには、事前の打合せを十分行う必要がある。

※ T2がT1を補助する「補助型」(例:音楽でT2がピアノを弾く)や、T1とT2が交互に指導する「演示型」(例:子どもの前で演じて見せる)を加えることもあります。

2021/8/31 12

12

---

---

---

---

---

---

---

---

---

---

### TTの進め方

- TTを機能させるためには、授業づくりの各段階(1. 指導計画の立案、2. 必要な教材・教具の準備、3. 指導の実施、4. 評価と反省)において、教師が協同で進めることが大切
- 各段階で、教師同士が授業に対する十分な共通理解を図ることが必要
- 【TTで共通理解する内容】
  1. ① 子どもの個別目標
  2. ② 授業展開
  3. ③ 役割分担
  4. ④ 展開や活動内容、個別目標を考えたTTの指導・支援内容の確認
  5. ⑤ 評価(児童生徒の姿、教師の手立て) 効果的な指導

13

---

---

---

---

---

---

---

---

### 演習－TTによる模擬授業

- 単元はどこでもよいが、指導案をきちんと作成すること

14

---

---

---

---

---

---

---

---

### 演習－TTによる模擬授業

- 2名以上3名以下で教科情報におけるTTの模擬授業を行ってみる
- テーマは「情報デザイン」
- 指導案は15分の指導案を作成すること
  - 指導案を所定の場所に提出すること
  - 可能であれば印刷、難しいようなら24時まで提出し、連絡すること
- 指導案には、主担当、副担当と記載しておくこと(主担当が作成し、副担当にチェックを見てもらい、確認が取れたらOK)

15

---

---

---

---

---

---

---

---

**課題**

1. 教員1人におけるアクティブラーニングのメリット/デメリットを考えよ
2. TTにおけるアクティブラーニングのメリット/デメリットを考えよ
3. 教員の立場からしてBOYDについてメリット/デメリットを考えよ
4. TTについての必要性和現状について考えよ

• 提出 : Googleフォーム  
• 締め切り : 授業の前日21時まで

2021/8/31 16

16

---

---

---

---

---

---

---

---

**次回**

- 1限目 : TTの対面授業を行います
- 2限目 : 模擬授業(1) セキュリティ
- 3限目 : 模擬授業(2) アナログとデジタル

2021/8/31 17

17

---

---

---

---

---

---

---

---